

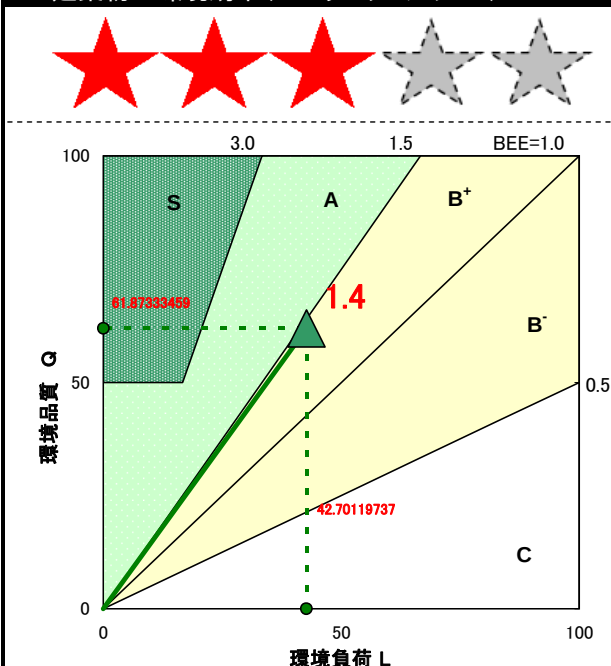
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	(仮称)マックスバリュ坪井店新築工事	階数	地上1F
建設地	熊本県熊本市	構造	S造
用途地域	第2種住居、準防火地域	平均居住人員	- 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年5月 予定	評価の実施日	2010年12月1日
敷地面積	6,881 m ²	作成者	柴田 麻衣子
建築面積	2,552 m ²	確認日	2011年1月15日
延床面積	2,480 m ²	確認者	加藤 智明



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.4

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

	評価点
85	

評価点

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

94.7

83.7

82.1

72

■ 熊本県重点評価基準

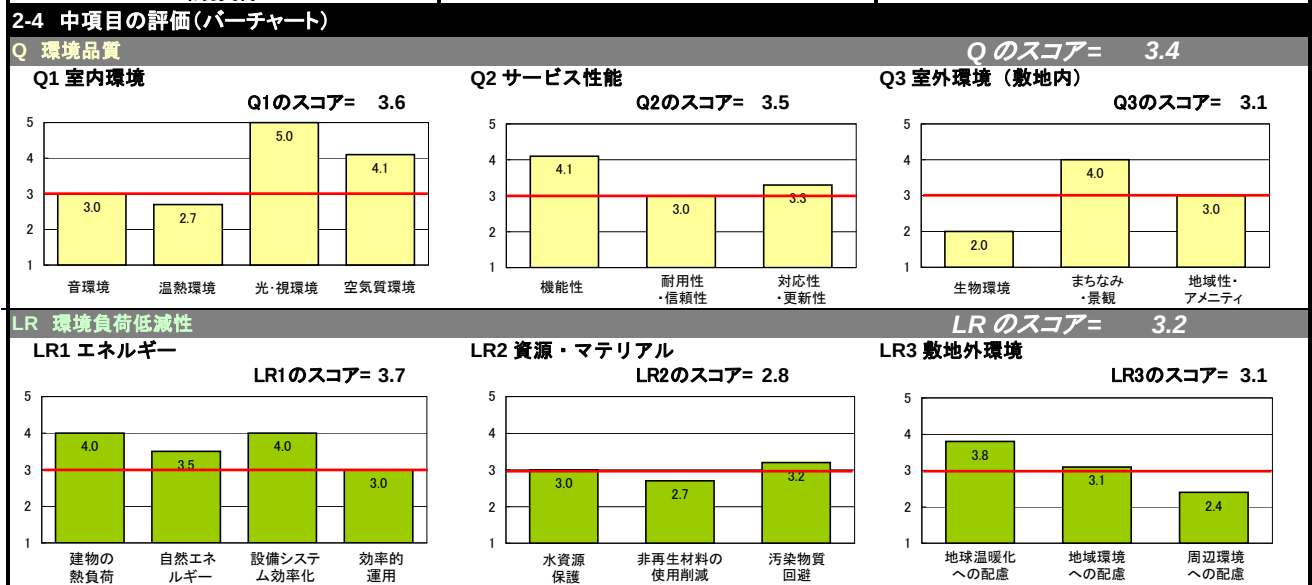
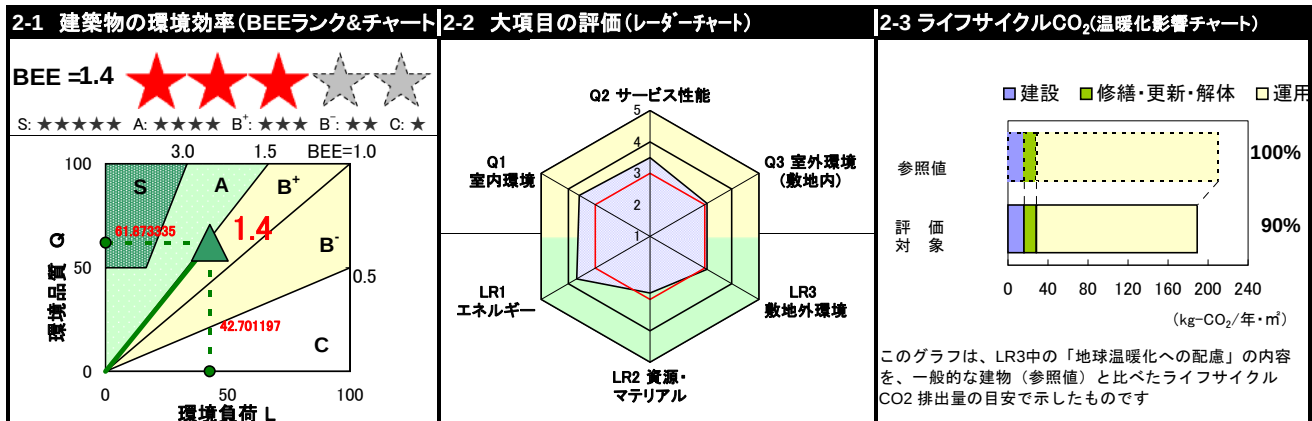
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ坪井店新築工事	階数	地上1F
建設地	熊本県熊本市	構造	S造
用途地域	第2種住居、準防火地域	平均居住人員	- 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年5月 予定	評価の実施日	2010年12月1日
敷地面積	6,881 m ²	作成者	柴田 麻衣子
建築面積	2,552 m ²	確認日	2011年1月15日
延床面積	2,480 m ²	確認者	加藤 智明



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・バリアフリー新法認定を取得し、ユニバーサルデザイン性の高い計画となっている。
- ・熊本市景観計画・熊本市地下水保全条例を遵守し、景観・環境へ配慮する。

Q1 室内環境

- ・照明や空調は、エリア別に制御可能なシステムとし、室内環境の調整を細かく行うことが可能。

Q2 サービス性能

- ・余裕のある階高設定、また、正面をガラス張りにすることにより、圧迫感の軽減に努める。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内の樹木を保存・移植することにより、生態系への影響を軽減する。

LR1 エネルギー

- ・ハイサイドライトを設けることで、採光や通風等の自然エネルギーの活用を行い、設備負荷を軽減する。
- ・高効率照明等の採用。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と内装仕上材は、容易に分別が可能で、資源のリサイクルに貢献。
- ・節水型便器の採用。

LR3 敷地外環境

- ・浸透性アスファルト舗装・浸透施設付き集水樹の設置により、雨水排水の地域インフラへの負荷を低減。
- ・車両の敷地内への効率的な入場ルートを確認すべく、敷地前のバス停の移設を行い、交通負荷抑制に努める。

その他

0

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
(仮称)マックスバリュ坪井店新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.4
Q1 室内環境			0.40			3.6
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.70	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.30	3.0	-	
2 温熱環境		2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温設定		3.0	0.50	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.17	3.0	-	
4 ゾーン別制御性	上下温度差、気流速度を考慮。	4.0	0.33	3.0	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間空気調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		5.0	0.25	-	-	5.0
3.1 昼光利用		5.0	0.50	-	-	
1 昼光率		-	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	ハイスାଇドライトの設置。	5.0	1.00	4.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		-	-	4.0	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
1 照度		-	-	3.0	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御	昼光センサーにてブロック点滅制御の採用。	5.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境		4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	・ホルムアルデヒド: F☆☆☆☆認定品・規制対象外のものの採用 ・クロロビリス: 一切添加していないものの採用	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能		-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体を禁煙。喫煙室無し。	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.57	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足し、且つバリアフリー新法の認定を取得	5.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.43	-	-	
1 広さ感・景観	天井高: 4.0m	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	3.0	-	
3 内装計画		3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	主要仕上材: カラーガルバリウム鋼板	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途B以上とし、E不使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		1.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			2.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高=4.0m	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	比率=0.089	5.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			2.2	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		1.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		道路よりセットバックした位置に建物を配置し、圧迫感を軽減する。記念樹の移設。等	4.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		148ポイント	4.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	ハイスайдライトの設置。	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=10	4.0	0.30	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-
1.1	節水		3.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上材にて内装仕上を行い、容易に分別可能。	4.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤使用なし。	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	浸透性アスファルト舗装・浸透施設付き集水樹の設置。	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	自転車置場・バイク置場の設置。適切な駐車スペースの配置や、付近のバス停を移設する等し、敷地内へアクセスし易い対策を講ずる。	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)マックスバリュ坪井店新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v3.2)_kmt2010(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-熊本《新築》2010年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		85.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.7	0.40	37.88
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	5.0	0.07			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				83.7	0.20	16.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	5.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.1	0.20	16.42
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数